

# 大阪市立大学地理学教室 同窓会会報 第24号

事務局 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3丁目3番138号  
大阪公立大学文学部地理学教室内  
TEL (06)6605-2011/FAX (06)6605-2011 e-Mail: suganotaku@gmail.com  
振込口座 00960-7-9642

## 大阪市立大学地理学教室同窓会第25回総会ご案内

本年夏に、本教室を含む大阪公立大学文学部が森ノ宮キャンパスへと移転します。大きな環境変化の年であるとともに、これまでの伝統をどのように新しい環境で維持していくか、試行錯誤しなければならない年ともなります。平成12年の大阪市立大学地理学教室創立50周年を契機に設立された『大阪市立大学地理学教室同窓会』も、皆様のご尽力により活動25年目を迎えました。本同窓会の役割は、地理学の研究と教育の振興、地理学教室および現役学生等への支援など多岐に及びますが、最も大切なのは同窓生相互の交流と親睦にあるかと存じます。そのために、平成15年度より地理学教室恒例の年度末行事である卒論・修論発表会にあわせて年に1回の総会を開催しております。

今年度の第25回同窓会総会の開催については杉本キャンパス図書館（学術情報センター）1階の文化交流室にて行います。第25回同窓会総会、予餞会・同窓会懇親会への参加を希望される方は、菅野（suganotaku@gmail.com）に御一報頂けますと幸いです。

当日の準備のため、必ず事前に参加のご連絡をお願い致します。

### 記

#### 1 第24回同窓会総会について

日時 2025年2月22日(土) 午後5時30分～

場所 大阪公立大学杉本図書館（学術情報センター）1階 文化交流室  
(JR 阪和線「杉本町」駅下車、東に徒歩7分；本館地区内)

次第 (1) 令和6年度 会務報告（会計報告を含む）について  
(2) 今後の活動について

#### 2 予餞会・同窓会懇親会について

日時 2025年2月22日(土) 午後6時00分～

場所 大阪公立大学杉本図書館（学術情報センター）1階 野のはなハウス

会費 5,000円（ただし令和5年度卒業・修了生は2,500円）

お願い 予餞会費につきましては、同封の振込み用紙の通信欄に明細をご記入の上、ご納入ください（メール配信の方で予餞会・同窓会懇親会に参加される場合は、当日受付にてお支払いください）。なお、

予餞会にご参加の方は、会場準備の都合上、2月14日(金)までにお申し込みくださいますようお願い申し上げます。

問合わせ先

菅野 拓 (大阪公立大学文学部)

電話 : 06-6605-2011 (代) , e-mail : suganotaku@gmail.com 携帯 : 090-7090-9822

## 令和6年度 大阪公立大学地理学教室 卒論・修論発表会 プログラム

<卒論発表>

- 10:00 被災地の都市計画における浸水想定区域の取り扱いに関する比較研究  
齋木 幸穂
- 10:20 神戸市における学習支援の輻輳  
—「無料塾」の取り組みに注目して—  
伊藤 廉
- 10:40 街路樹がもたらした景観イメージの変容  
—宮崎市におけるヤシの社会的受容に着目して—  
日吉 健人
- 11:00 若者の観光行動分析  
—京都市を事例として—  
高尾 葵
- 11:20 文字モニュメントの急増とその実態  
—SNS時代における地域活性化の新潮流—  
ハンター マーク 秀樹
- 11:40 映画産業における時代劇の衰退と撮影所の観光資源化  
李 銀洙

休憩 (12:00~13:00)

- 13:00 統計指標に基づいた地方型サテライトオフィスの立地分析と類型化の試み  
—和歌山県の事例研究を踏まえて—  
是松 楽
- 13:20 地理学的観点から見る24時間型ジム躍進の原因と展望  
—東京都千代田区を事例に—  
三上 柊
- 13:40 大阪・日本橋におけるサブカルチャー系の店舗の集積とその変容  
—外国人観光客需要とコロナの影響を中心に—  
中谷 卓幹
- 14:00 国内地方都市の音楽産業を支える社交と空間  
—1970年代から1990年代の福岡音楽シーンに注目して—  
光木 聡一郎

休憩 (14:20~14:40)

- 14:40 「伝統野菜」の純粋性と地域性  
—大阪府における取り組みから—  
岡 隆二郎

15:00 地域主体の獣害対策における担い手へのアプローチ  
—兵庫県丹波篠山市を事例として— 城川 素祐太

15:20 持続可能なジビエ事業の実現に向けた課題と展望  
—長野県小諸市と長野市を事例にして— 中谷 颯太

休憩（15:40～16:00）

< 修論発表 >

16:00 中国少数民族高考政策の公平性と地域的課題  
—甘肅省と四川省を中心とした地理的視点からの分析— 劉 森

16:30 大阪都心地域におけるニューカマー集住地域の形成プロセス  
—大阪市中央区島之内地域を事例に— 錢 胤杉

17:00 交錯する空間における中国人のネットワーク社会の新たな様相  
—大阪市中央区の中国系店舗に着目して— 王 龍飛

17:30 同窓会総会

18:00 予餞会・同窓会懇親会

## 令和6年度 卒業論文題目・要旨

### 地域主体の獣害対策における担い手へのアプローチ—兵庫県丹波篠山市を事例として—

城川 素祐太

本研究では、地域主体の獣害対策事業において主体である地域住民に対してどのようなアプローチが行われているのか明らかにする。縮小社会における獣害対策事業の開始・継続に必要な要素について考察を行う。調査の結果、地域の実情に応じた順応的な支援が行われていることが明らかになった。順応的な獣害対策のための中間支援の拡充が求められる。

### 映画産業における時代劇の衰退と撮影所の観光資源化

李 銀洙

本研究では日本の東映太秦映画村と韓国の大長今（テジャングム）パークを事例にとりあげ、映画テーマパークと地域間の関係についての知見を提示する。時代劇を扱う両撮影所の変遷に注目し、それぞれの運営戦略と地域に与える影響について考察する。調査の結果、各施設は置かれた社会的背景や文化的資源を活用してコンテンツを創造し、地域に経済的効果や産業の発達をもたらすが、そのためには地域との関係性や自治体における産業の理解度が求められることが分かった。

### 神戸市における学習支援の輻輳—「無料塾」の取り組みに注目して—

伊藤 廉

本研究は、神戸市において、行政が管理する無料塾と独立運営の無料塾の併存が学習支援活動に与える影響を明らかにする。学習支援に求められる意義を前提に、無料塾運営団体の活動内容を比較し考察する。調査の結果、学習支援の輻輳は活動の多様性を広げる正の側面と、ガバナンスの混乱を招きうる負の側面を有することがわかった。学習支援が拡大している昨今、無料塾運営のあり方についても検討を重ねることが肝要だろう。

### 「伝統野菜」の純粋性と地域性—大阪府における取り組みから—

岡 隆二郎

本研究では「伝統野菜」がいかにして伝統的であるかという論点に対して、それが繰り返し採種・栽培されてきたという「純粋性」と、それがそ

の地域に関わり深いものであるという「地域性」の、二つの視点からこれを明らかにしていく。考察にあたっては、大阪府における「伝統野菜」への取り組みを例とする。結果として、純粋性も地域性も「伝統野菜」には求められるが、純粋性についてはしばしば曖昧さが存在することが分かった。

### 統計指標に基づいた地方型サテライトオフィスの立地分析と類型化の試み—和歌山県の事例研究を踏まえて—

是松 楽

本研究では地方創生を背景に拡大する地方型サテライトオフィスについて、統計指標に基づいた新たな類型を提示したうえで、類型間の差異を明らかにした。まず、サテライトオフィス誘致の実績がある345市町村を対象にクラスター分析を行い、4類型を導出した。次に和歌山県を事例に企業誘致成功には民間事業者との連携が重要であることを示したほか、地方型サテライトオフィスの類型間で企業進出の目的や背景等に違いがあることを考察した。さらなる拡大が予想される地方型サテライトオフィスについて、本研究が地域特性に即した企業誘致事業への一助となることを期待する。

### 被災地の都市計画における浸水想定区域の取り扱いに関する比較研究

齋木 幸穂

本研究では、立地適正化計画の開始以降に甚大な水害を経験した地域の都市計画の中で、浸水想定区域がどの程度考慮されているかを分析し、浸水リスクを考慮した都市計画に関係する要素を明らかにする。分析の結果、被災から計画策定までが迅速な自治体ほど浸水リスクを考慮した安全な計画を立てる傾向にあり、人口密度や被災の規模などとは関連がないことがわかった。安全な都市計画のためには、浸水想定区域の取り扱いを自治体の判断に委ねるのではなく、国が基準を定めることが必要になるだろう。

### 若者の観光行動分析—京都市を事例として—

高尾 葵

本研究では、歴史的建造物が多い京都市における年代による観光行動の違いを明らかにする。Rを用いた観光ネットワークの次数中心性・近接中心性・媒介中心性の3つの指標による分析と、ArcGIS Insightsによる経路の視覚化を行う。その結果、年代により観光ネットワークの構造が異なることと、高頻度に観測される経路の違いがある

ことが明らかになった。訪問する観光地やルート  
の選択理由を把握するためにも量的調査だけで  
なく、質的調査による議論も必要であろう。

### 持続可能なジビエ事業の実現に向けた課題と展 望—長野県小諸市と長野市を事例にして—

中谷 颯太

本研究では、自治体が主体となって行う「ジビエ事業」について持続可能な運営を実現するために必要とされる要素を明らかにする。調査対象地は、長野県小諸市と長野市を取り上げる。調査の結果、自治体内に野生鳥獣やジビエに関する専門知識を持つ者がいないことや、地元の猟友会に依存した捕獲体制が問題となっていることが明らかになった。自治体がジビエ事業を行う上では、外部の専門機関に委託することや、経営能力を持った人材による運営が望ましいと考える。

### 大阪・日本橋におけるサブカルチャー系の店舗の 集積とその変容—外国人観光客需要とコロナの 影響を中心に—

中谷 卓幹

本研究では、大阪・日本橋のサブカルチャー系の店舗の集積が、外国人観光客やコロナ禍の影響でどのように変化したかを明らかにする。調査の結果、業種ごとの店舗数や集積構造に部分的な影響を受けたものの、サブカルチャー系の店舗の集積は変わらず維持されていた。また、外国人観光客への依存度が高い免税店や宿泊施設の増加が進んでいた「日本橋筋商店街」と、依然としてサブカルチャー系の店舗が中心の「オタロード」では、コロナによる影響やその後の回復に差がみられた。

### 文字モニュメントの急増とその実態—SNS時代 における地域活性化の新潮流—

ハンター マーク 秀樹

本研究は近年急増している文字モニュメントの設置の実態について明らかにし、新たな観光スポット創造の方法として文字モニュメントに関する情報を提供することを目的としている。調査を経て、文字モニュメントの存在意義が2017年の「BE KOBE」モニュメント設置の時期を境に変化しており、市民や地元住民に向けた対内的な働きかけから外部からの訪客拡大を狙った対外的な働きかけとしての側面が強まっていることが明らかになった。

### 街路樹がもたらした景観イメージの変容—宮崎 市におけるヤシの社会的受容に着目して—

日吉 健人

本研究では宮崎市においてヤシのある景観が税金をもって植え替えられ、維持管理されていることに着目し、シンボルツリーによる景観イメージがどのように成立したかについて明らかにする。宮崎市は多くの県庁所在地と異なり、置県の際に初めて都市基盤が構築されており、重要視される景観も比較的新しいものである。結果としてヤシイメージを担う中心的な樹種は時代とともに変遷しており、これは設置者・管理者の変遷がかかわっているということがわかった。また、街路樹は自然物であり、成長によっても景観イメージが大きく変わるといっても併せて指摘する。

### 地理学的観点から見る24時間型ジム躍進の原因 と展望—東京都千代田区を事例に—

三上 柊

本研究では、日本における24時間型ジムの普及要因を明らかにし、業界の発展可能性を検討することを目的とする。エニタイムフィットネスとc hocoZAPを主な研究対象として、千代田区を事例に立地特性や経営戦略を分析し、社会的背景との関連を考察した。調査の結果、コロナ禍による健康意識の高まり、都市生活に適応したサービスの拡充、低コスト運営による競争力の確保が普及を促進していることが明らかになった。今後の展望として、さらなる市場拡大には新たなサービス展開や立地戦略の工夫が求められる。

### 国内地方都市の音楽産業を支える社交と空間—1 970年代から1990年代の福岡音楽シーンに注目 して—

光木 聡一郎

本研究では国内地方都市の音楽産業において、人的ネットワークやそれを形成する空間がどう機能したかを明らかにする。1970年代から1990年代の福岡市の音楽シーンに注目し、文献調査と聞き取り調査から考察を行う。調査の結果、レコード店の人的ネットワーク形成における重要な役割や時代ごとの空間の変遷、1990年代以降における東京資本の流入による、従来優勢だった地元資本の弱体化などが明らかになった。今後は他都市との比較研究や幅広い聞き取り調査が必要であろう。

以上13編

## 令和6年度 修士論文題目・要旨

交錯する空間における中国人のネットワーク社会の新たな様相—大阪市中央区の中国系店舗に着目して—

王 龍飛

本研究は、大阪市中央区の中国系店舗を対象にオフライン空間とオンライン空間が交錯する中で形成される新たな中国人ネットワーク社会を解明した。オンライン空間がネットワーク形成に及ぼす影響を検討した結果、中国系SNSの活用によるエスニック・ビジネスが、オフライン空間における地理的中心地に依存せず発展していることが判明した。特に、地理的「中心的不在」という概念を用いて分析したところ、中国系SNSは顧客とのつながりや情報共有を促進し、従来の地理的中心の概念を再定義する役割を果たすと同時に、地理的制約を超えた広範囲なネットワークの形成を可能にしていることが示された。これにより、オンライン空間はオフライン空間を補完するとともに、新たな中心機能を担う空間としての役割を果たしていることが明らかとなった。本研究は、人文地理学におけるハイブリッド空間に関する研究の深化に貢献し、デジタル社会と地域社会との関係性を再考する上での重要な出発点を提供するものである。

大阪都心地域におけるニューカマー集住地域の形成プロセス—大阪市中央区島之内地域を事例に—

銭 胤杉

本研究では、大阪市中央区島之内地域を対象に1980年代以降増加したニューカマー外国人の集住が地域社会に与えている影響を明らかにする。具体的には、外国人住民の動態変化や歴史的背景エスニックビジネスの変容を基に、地域内での居住実態や軋轢を考察する。調査の結果、島之内地域は1980年代以降のフィリピン人流入を起点に、2000年代には韓国・朝鮮人、2010年代以降は中国人の流入が顕著となり、多国籍な外国人住民が共存する地域へと変貌した。特に近年、中国系エスニックビジネスの発展により「ネオ中華街」として注目される一方、住民間の文化的摩擦や社会的軋轢も顕在化している。また、住民構成には多国籍化や女性住民の多さが特徴的であり、短期滞在者と定住者が混在する複雑な社会構造の形成を示している。これらの分析を通じて、島之内地域は都心型のニューカマー集住地域の典型例として、外国人住民の集住による地域の再編を理解する手助けになるであろう。

中国少数民族高考政策の公平性と地域的課題—甘肅省と四川省を中心とした地理的視点からの分析—

劉 森

本研究は、中国の少数民族学生を対象とした高考政策の公平性と実効性を地理学的視点から検討することを目的としている。「出身地」「経済状況」「少数民族言語・文化」「支援政策」といった要因が高考成绩や大学進学に与える影響を明らかにし、特に甘肅省と四川省という地理的・文化的に対照的な地域を選定し、地域特性が政策効果に及ぼす影響を比較した。甘肅省は経済基盤が脆弱で教育資源が不足している一方、四川省は経済的に比較的安定し、教育インフラが整備されている。調査の結果、農村部や少数民族地域での教育支援政策は一定の成果を上げているが、適用基準の曖昧さや政策効果の偏在が課題として浮き彫りになった。また、文化的・言語的背景に適応した政策設計の必要性が指摘され、「高考加点政策」や「予科制度」の有効性と限界を分析した結果、少数民族学生が直面する言語的・文化的障壁が高考成绩や進学機会に及ぼす影響が明確になった。地域特性を考慮した柔軟な政策の設計が教育公平性の実現に不可欠であることが示された。

以上3編

## ☆同窓会だより

### [第 24 回同窓会総会報告]

2024年2月17日(土)午後2時より卒論修論発表会が開催されました。卒業論文2篇、修士論文3篇の発表が行われ、活発な質疑応答がありました。引き続き、第24回同窓会総会が午後5時より開催され、同窓会・会則変更の審議、前年度の会務報告等に関する報告が行われました。

### [新キャンパスへの移転状況]

2022年4月から大阪市立大学と大阪府立大学が統合され大阪公立大学として開学しました。また、2025年後期に地理学教室は杉本キャンパスから森ノ宮キャンパスに移転する予定です。建築が進み、学生向けの見学会も実施されました。



建設途中の西側外観

大阪公立大学HPより転載

<https://www.omu.ac.jp/info/news/entry-14715.html>

大阪市立大学地理学教室同窓会役員

(任期：令和5年3月～令和7年2月)

会 長 山野 正彦

顧 問 山岸 和一郎 石原 照敏 松下 任久

運営委員長 菅野 拓

運営委員 青木 翔平 大場 茂明 岸本 智洋 島崎 雄貴 立見 淳哉

会 計 木村 義成

会計監査 吉崎 広江 山田 理絵子

いずれも敬称略

\*大阪公立大学地理学教室ではホームページを作成して、教室スタッフの紹介、講義概要、大学院生の研究報告などの様々な情報を発信しています。同窓会のページも設けておりますので、是非一度ご覧下さい。アドレスは、 <https://www.omu.ac.jp/lit/geo/> です。